

QUALIFYING NEWS FLASH

Round
3



予選速報 2009 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第3戦 2009年5月31日(日) ツインリンクもてぎ

発行人/編集人:
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0047 東京都千代田区九段南2-3-25

www.f-nippon.co.jp

Take Free
ご自由におとりください



小暮卓史 (NAKAJIMA RACING) が僚友を退け気迫のポール獲得! ルーキー塚越広大 (HFDP RACING) が大健闘3位を奪う!!

5月30日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第3戦の予選がツインリンクもてぎで行われ、No.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING) がポールポジションを獲得。3位には地元・今市出身のNo.10 塚越広大 (HFDP RACING) が入った。

絶好調のNAKAJIMA RACING勢

予選方式は昨年と同じノックアウト方式。昼頃にわか雨が降ったが、予選Q1開始の午後1時、路面は完全なドライ。他チームよりも頭ひとつ抜け出ている感のある小暮がトップ、No.31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING) が2番手に。これに続いたのは、No.8 石浦宏明 (Team LeMans)、No.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TOM'S)。一方、Q2進出を逃したのはNo.40 リチャード・ライアン (DOCOMO DANDELION) とNo.48 立川祐路 (CERUMO/INGING) だった。



10分後にQ2が開始。まずピットを出たデュバルと小暮はフロントにニュータイヤ、リアにユーズドタイヤを装着して、フロントタイヤをスクラブ (接地面の慣らし) すると、そのままピットインし、リアにニュータイヤを装着して待機する。残り7分、各車がタイムアタックに出る中、2分ほど遅れてデュバルと小暮もコースイン。計測1周目にタイムアタック。他がまだウォームアップラップの段階で、2台揃って1分34秒前半のタイムを叩き出し、デュバルがトップ、小暮が2番手。これに松田が続いた。Q3進出を逃したのは、No.7 国本京佑 (Team LeMans)、No.41 伊沢拓也 (DOCOMO DANDELION)。さらに、ランキングトップのNo.2 ブノワ・トレイユ (LAWSON IMPUL) もセッティングが決まらず、まさかのQ2敗退となった。

塚越と石浦のアタック合戦は塚越に軍配

Q3は午後1時50分から。ここでも小暮、デュバルは早々にフロントにだけニュータイヤをつけてコースイン。石浦も同じ作戦を取ってコースに出ると、スクラブを終えてピットに戻る。他のマシンは残り時間が6分半からニュータイヤでコースイン。そして、その1分ほどのちに、石浦。続いてデュバル、小暮の順でコースへと入って行った。

この時、小暮は朝のフリー走行でスクラブだけしてあったリアタイヤを装着している。そして、今度もNAKAJIMA RACINGの2台は、他のドライバーがまだタイヤを温めている時点で、好タイムをマーク。デュバルが1分34秒139、小暮はただ一人33秒台に入れ、1分33秒772とチームメイトを引き離した。そのため、デュバルはアタックを続けるが、自己ベストを更新できなかった。この2人に続いたのは塚越だ。最初のアタックで3番手に付け、一時は石浦に抜かれるが、ラストラップのアタックで再度3番手を奪い返した。





Pole Position: 小暮 卓史 NAKAJIMA RACING / #32

Q3は自分でも“決まった!”という感じ

多分1年ぶりぐらいのポールポジション*で、今日は泣いてしまいうなほど嬉しかった。鈴鹿からウチのチームのクルマはすごく良くなってたけど、自分はいいいレースができなくて、途中で帰ってしまっチームにも怒られました。それが、こういうポールポジションという形で返せたので嬉しいです。

今日はチームメイトとの戦いになると思っていました。Q1、Q2で

はソツなく走れたという感じでしたが、Q3は自分でも“決まった!”という感じでしたね。本来なら、鈴鹿からポールポジション争いのできるだけのポテンシャルはあったと思いますが、自分がそれをまとめられなかった。でも、走り出しからトップ3にいれば気分も乗りますし、そういう意味では今回は上手く歯車を噛み合わせられたかなと思います。

* 2007年最終戦以来の予選1位となる



2nd: ロイック・デュバル NAKAJIMA RACING / #31

決勝ではとにかく優勝したい

そんなに悪い結果ではなかったよ。僕たちはいいクルマを手に入れたし、僕と小暮の差はわずかだった。でもQ3は残念ながら、僕は十分な速さを発揮することができなかった。最後までちょっと死に物狂いでもう1周アタックを続行したんだけど、タイヤのグリップダウンが早くて、ベストタイムを更新することができなかった。彼にはおめでとうと言いたい。でも少し悔しいよ。明日の決勝ではとにかく優勝したいね。

PP **32** 小暮 卓史
NAKAJIMA RACING
Quality 1: 1'34.264
Quality 2: 1'34.100
Quality 3: 1'33.772

3 **10** 塚越 広大
HFDP RACING
Quality 1: 1'35.437
Quality 2: 1'34.977
Quality 3: 1'34.633

4 **8** 石浦 宏明
Team LeMans
Quality 1: 1'34.979
Quality 2: 1'34.776
Quality 3: 1'34.782

2 **31** L.デュバル
NAKAJIMA RACING
Quality 1: 1'34.318
Quality 2: 1'34.060
Quality 3: 1'34.139

Starting Grid
Race start: 14:30

タイムスケジュール(決勝日)

- 9:15 FCJ 第6戦 決勝(18周)
- 10:15 » 10:45 Formula NIPPONフリー走行
- 10:55 » 11:10 サーキットサファリ
- 11:20 » 12:05 ピットウォーク
- 12:35 CIVIC 決勝(10周)
- 14:30 Formula NIPPON決勝(52周)

Weather
本日の天気予報
(ツイリンクもてぎ)

時間	9:00	12:00	15:00	18:00	21:00
天気	曇り	曇り	曇り	弱雨	弱雨
℃	22	25	25	21	18

Pit Assignment

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
*	*	*	1/2	*	20	*	48	31/32	36/37	7/8	40/41	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
◀ First Corner										▶ Pit Road																				

Round 3 MOTEGI Race Preview - 第3戦決勝レースの見どころ -

鍵になるのは天候だけではない!?
最大の注目はスタート。そしてピット戦略もみどころに。

まさに梅雨のはしりのような天候となった昨日のフォーミュラ・ニッポン第3戦・予選。この天候は本日の決勝日も続きそうな気配で、レースも蒸し暑いコンディションとなりそうだ。あるいは途中で雨となる可能性も否定はできず、天候次第でレースの行方も全く読めないものとなるだろう。とは言うものの、まずキーポイントとなるのはスタート。ツイリンクもてぎは、他のサーキット以上にスタートの違反に厳しい。その分、スタート時のドライバーには、非常に大きなプレッシャーがかかってくる。そのプレッシャーを跳ね除け、1コーナーにトップで飛び込むのは誰なのだろうか?

もてぎは、富士や鈴鹿に比べて、1コーナーまでの距離は短く、前に出るのは難しいとされるが、最初の燃料搭載量やギヤ比によっても加速は変わってくるだけに、ここは重要な見どころだ。またレース中のピット戦略も、今回はチームによって分かれるはず。NAKAJIMA RACINGの小暮、デュバルの2台が得意の



2ピット作戦で、予選同様に他チームを突き放すのか。あるいは地元の名・塚越(写真)がベテラン勢を追い越していくのか。そのあたりに注目して欲しい。



3rd: 塚越 広大 HEDP RACING / #10

“ブラボー”って言われるようがんばります

朝のフリー走行では思うように走れませんでした。その後、監督やエンジニアたちとセットアップの方向性やドライビングのことを話し合っていて、それでQ1、Q2と進むことができました。最後は“行くしかない”っていうことで思い切り行ったのが、上手くまとまりました。今日は、監督に“グッジョブ”と言われ、嬉しかった。勝つと“ブラボー”って言ってくれるんですけど、そう言ってもらえるようがんばります。



4th: 石浦 宏明 Team LeMans / #8

クルマのレベル的には表彰台に上がれる

Q3はクルマが多くて、結局計測3周目のタイムになりました。もし計測1周目でアタックできていたら、塚越よりは前にいったでしょうね。もてぎは得意なサーキットなので、一番前からスタートしたいという気持ちがありました。クルマのレベル的には間違いなく表彰台に上がれる力があると思うので、ちゃんと走れば上がるし、もし上がれなければ僕のせいですね。雨でも、苦手意識はないので大丈夫だと思います。



5th: アンドレ・ロッターレ PETRONAS TEAM TOM'S / #36

決勝は表彰台を狙っていく!

今朝の流れは、満足のいく状態ではなく、スピードが足りなかった。でも予選になるとクルマは進歩して、Q2は特に手ごたえあるものになったよ。だからQ3ではもうちょっとタイムを削れると思ったのに、ごく僅かしか改善されなくて、しかもリアのグリップがなくなってしまい、Q2に比べたらきつとコンマ5秒は損したように思います。レースでは1点でも多くポイントを取ることはもちろん、表彰台を狙っていきます!

Nobody can expect the winner. Don't miss the race!!

新鋭の躍進、強豪の逆襲。天候以上に予想不可能の決勝レースから目を離すな!



36 A.ロッターレ PETRONAS TEAM TOM'S
Quality 1: 1'35.223
Quality 2: 1'34.714
Quality 3: 1'35.110



7 1 松田 次生 LAWSON TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.371
Quality 2: 1'34.559
Quality 3: 1'35.251



9 7 国本 京佑 Team LeMans
Quality 1: 1'35.483
Quality 2: 1'35.276
Quality 3: -



2 B.トレルイエ LAWSON TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.875
Quality 2: 1'35.517
Quality 3: -

48 立川 祐路 CERUMO/INGING
Quality 1: 1'36.194
Quality 2: -
Quality 3: -



13



6 20 平手 晃平 ahead TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.246
Quality 2: 1'34.918
Quality 3: 1'35.183



8 37 大嶋 和也 PETRONAS TEAM TOM'S
Quality 1: 1'35.559
Quality 2: 1'35.154
Quality 3: 1'35.616



41 伊沢 拓也 DOCOMO TEAM DANDELION RACING
Quality 1: 1'35.491
Quality 2: 1'35.280
Quality 3: -



40 R.ライアン DOCOMO TEAM DANDELION RACING
Quality 1: 1'36.002*
Quality 2: -
Quality 3: -

予選日: 2009年5月30日(土)
天候: 曇
路面: ドライ
予選通過: 1'40.862 : 107%

*No.40 2009ツインリンクもてぎ四輪一般競技規則 第30条 3)違反(ダブルチェッカー)により、決勝レースのスターティンググリッドを2グリッド降格とする。(裁定時刻 13:47)



ランキングトップの証明、Leader's RedのNo.2 トレルイエ

予選トップ3が語るオーバーテイク・システムの使いどころ

今季から登場し、話題を呼んでいるオーバーテイク・システム。雨の前戦鈴鹿では、使用するシーンはほとんど見られなかった。では、この決勝ではどうだろうか? 予選トップ3のドライバーは言う。ポールポジションの小暮卓史は「“ここで使おう”というシチュエーションは考えていませんが、やっぱりポールから逃げたいですね。ここぞっていう時に使えたら使おうと思います。使うとしたら、やっぱりバックストレートだと思うんです」とコメント。一方、2番手のデュバルは、「よくボタンがついていることを

忘れちゃうんだよね(笑)。鈴鹿でもブノワ(トレルイエ)を追っている時、中嶋監督が『ボタンを使え、使え』って無線で言っていたんだ。セットアップが良ければ、無理に使う必要はないかもしれない。ただし、何周も誰かを追うような感じになったら使うだろうね」と述べた。

自己最高位グリッドからスタートする塚越広大は、小暮と同様、「使うとしたらバックストレートから90度コーナーにかけてでしょうね」ということだった。

